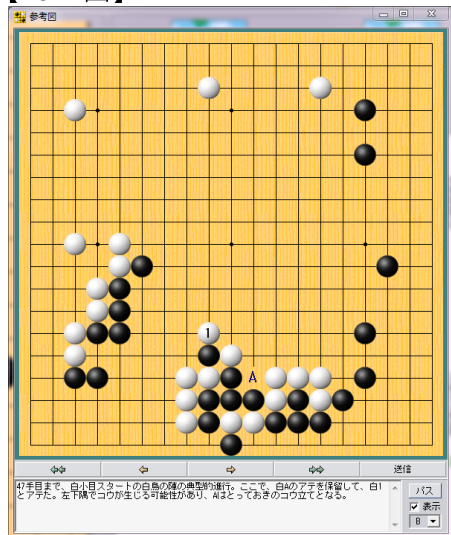


10. 別の展開例 3

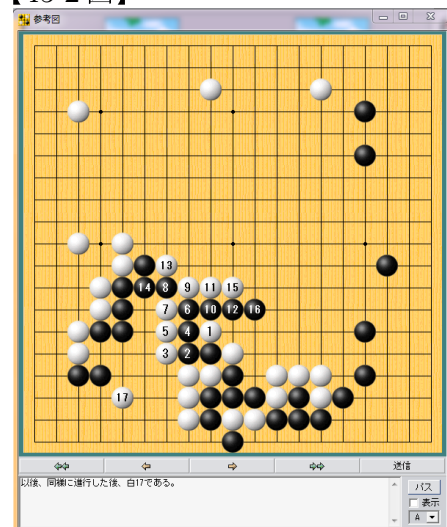
別パターンをもう一つ

【45-1 図】



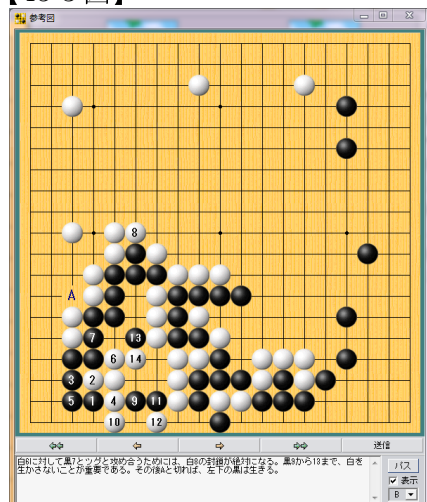
【45-1 図】 47 手目まで、白小目スタートの黒鳥の陣の典型的進行。ここで、白 A のアテを保留して、白 1 とアテた。左下隅でコウが生じる可能性があり、A はとっておきのコウ立てとなる。

【45-2 図】



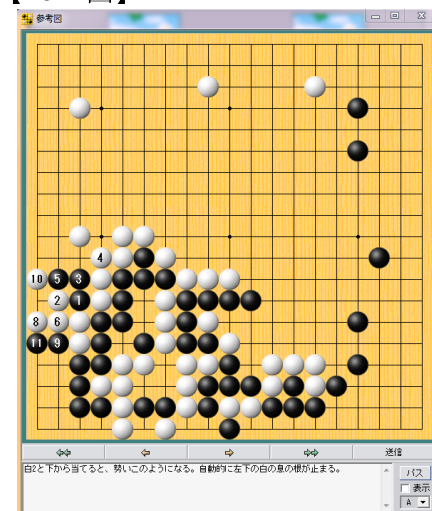
【45-2 図】 以後、これまでと同様に進行した後、白 17 と左下の黒との攻め合いの様相である。

【45-3 図】



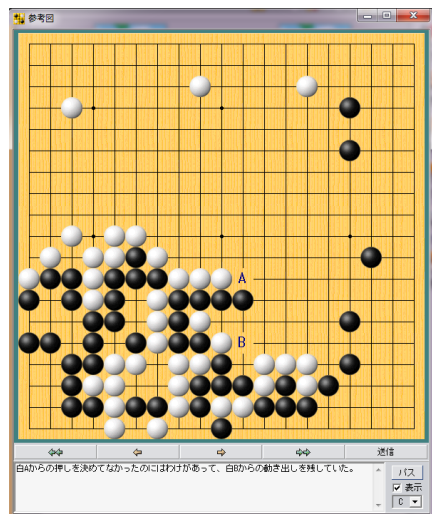
【45-3 図】 白 6 に対して黒 7 とツグと、攻め合うためには、白 8 の封鎖が絶対になる。黒 9 から 13 まで、白を生きさないことが重要である。その後 A と切れば、左下の黒は生きる。

【45-4 図】



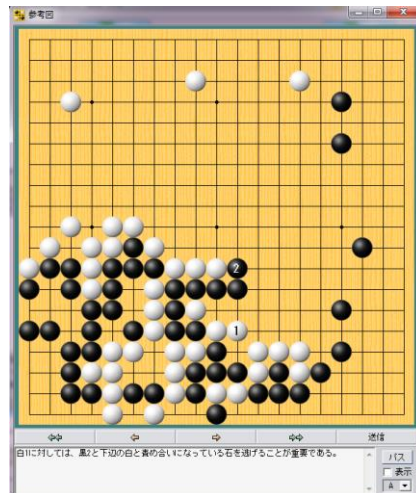
【45-4 図】 一例：白 2 と下から当てると、勢いこのようになる。自動的に下辺左の白の息の根が止まる。

【45-5 図】



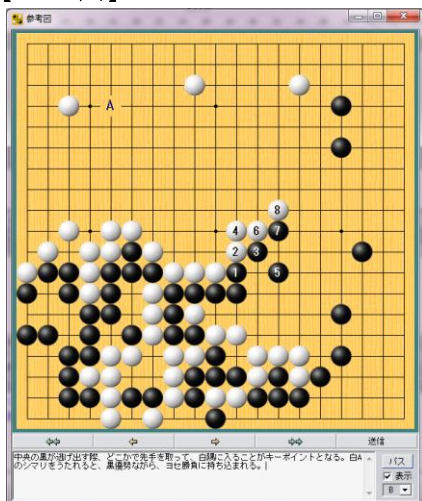
【45-5 図】 白 A からの押しを決めてなかったのにはわけがあって、白 B からの動き出しを残していた。

【45-6 図】



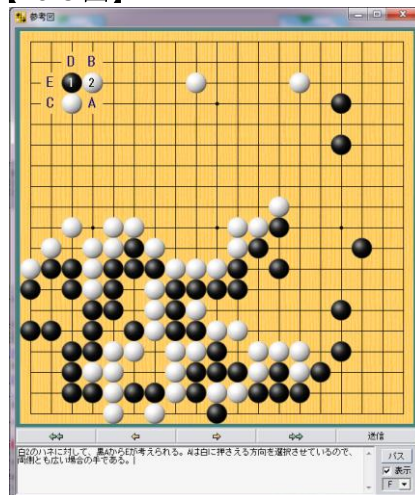
【45-6 図】 白 1 に対しては、黒 2 と下辺の白と攻め合いになっている石を逃げるのが重要である。仮に、下辺右側の白が生きたとしても、右辺は黒地になり、地合いの差は広がる一方である。

【45-7 図】



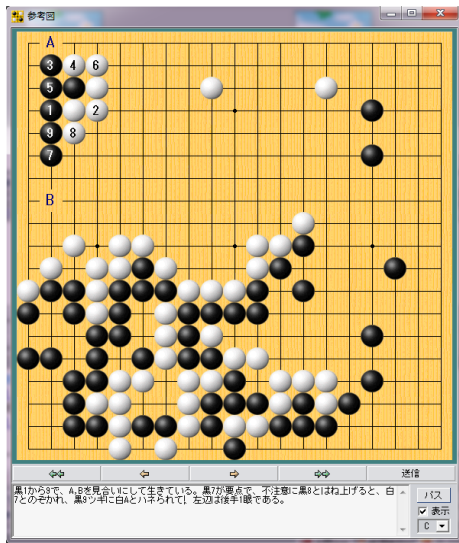
【45-7 図】 中央の黒が逃げ出す際、どこかで先手を取って、白隅に入ることがキーポイントとなる。白 A のシマリをうたれと、黒優勢ながら、ヨセ勝負に持ち込まれる。

【45-8 図】



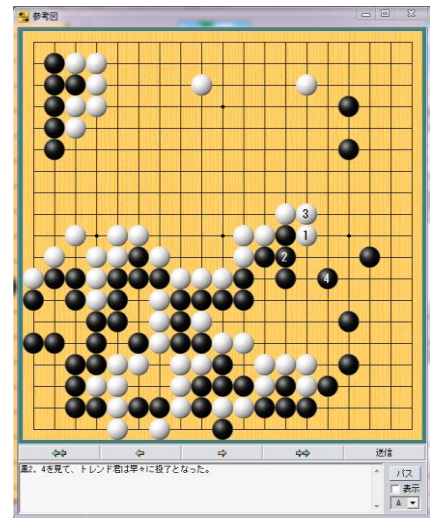
【45-8 図】 攻め合いになる心配がなくなったので、黒 1 と予定通り白隅に入る。白 2 に対して、A から E の手段が考えられるが、それぞれ上辺、左辺の白石の位置によって、工夫が必要になる。A は白に押さえる方向の選択を与えているので、どちら側も広い場合に合っている。この場合、左辺の方が 1 路広いので、左辺側をハネた。

【45-9 図】



【45-9 図】 黒 1 から 9 で、A、B を見合いにして生きている。黒 7 が要点で、不注意に黒 8 とはね上げると、白 7 とのぞかれ、黒 9 ツギに白 A とハネられて、左辺は後手 1 眼である。中央で生きる自信があれば、白模様の削減にもなるので、黒 8 も考えられるが、黒 7 と生きるだけで十分である。

【45-10 図】



【45-10 図】 黒 2、4 を見て、トレンド君は早々の投了となった。